

心 金田中(第62回)・方城中(第64回)体育会
に刻まれた思い出の1ページ

5月18日に金田中(262人)と方城中(193人)の体育会が行われ、初夏を感じさせる暑さの中、各校ともダンスや組体操、リレーなど約20種目に汗を流しました。心一つに練習を積み重ねてきた生徒たちは、当日その成果を精いっぱい発揮し、感動の涙を見せる場面も。中学校生活の最高の思い出として、それぞれの心に深く刻まれたようでした。



金田中体育会の最後を飾った3年生の全員リレー。拍手と歓声に包まれました。

秀 皆川正信さん写真展
作並んだフォトライフの集大成

皆川正信さん(赤池)の写真展が5月17日から9日間、赤池支所で開かれました。50前からカメラを手にした皆川さんは、コンテストの入賞も多数。写真展では昭和59年の大水害時の赤池町部や上野峡のカワセミの瞬間をとらえた貴重な作品が並びました。「懐かしい、感動した」などの感想が寄せられ、40点の秀作が訪れる人の目を楽しませました。



作品への質問に答える皆川さん、今の目標は英彦山でのヤマセミの撮影です。

厳かな行道。まだ5分咲きでしたが周囲には藤の甘い香りが漂っていました。



迎 定禅寺の藤供養藤祭り
接の藤の長寿と満開を祈願

境内にある県指定天然記念物「迎接の藤」の満開を間近にした4月29日に、定禅寺(弁城)で「藤祭り」が開かれました。約百人が藤棚を囲むように見守る中、祭壇までの行道の後、読経や献笛、お神酒による供養などが行われ、藤の長寿と満開が祈願されました。迎接の藤は5月3日から満開となり、大型連休中に多くの花見客を魅了しました。

敷地内の第二会場にも、先代の存在感あふれる多様な秀作が並びました。



先 豊前吉右衛門窯の窯開き
代吉右衛門氏の高雅な作品公開

豊前吉右衛門窯(弁城)の窯開きが4月26日から開かれ、先代の故・永末吉右衛門(晴美)氏の貴重な作品およそ70点が公開されました。細い文様の溝に顔料を施して彩色した「刻染付」という独自の技法で名を馳せたその作風は、繊細で優美。陶器の肌は年月を重ねた風合いも加わり、訪れたファンは、味わい深い作品をじっくりと鑑賞していました。

渡元から幅園し、当時官寺最高位の南禅寺住職も務めた高僧 無隠元庵禪師の秀逸な坐像。地元では黒仏様と呼ばれています。



元 興国寺開山堂を移転新築
庵禪師坐像が新堂に鎮座

興国寺(上野)の新たな開山堂に元庵禪師坐像を移設する着座式が4月24日に行われました。像は県指定文化財で興国寺開山・無隠元庵の木造彫刻。旧開山堂は湿度が高く、像が傷む恐れがあるため移転新築され、竣工後、内部の湿度安定までに約2年をかけてこの日を迎えました。関係者が見守るなか、九州歴史博物館、県教委、町教委の職員が像を慎重に設置。法要を行った横山哲志住職は「今年度は元庵禪師650遠忌の年、10月の法要に間に合っとうれしい」と節目の新設を喜びました。

地 南木菅原神社神幸祭
域を挙げて豊作を願う

南木菅原神社の神幸祭が5月2日・3日に催され、きらびやかな稚児と厳かな雰囲気のある獅子舞、神社と御旅所で舞を奉納しました。農繁期に向けて豊作を願うこの舞は、明治20年代に当時の青年たちが筑前(飯塚市庄内町)の網分で習い覚えたのが始まりと伝えられています。戦争中も絶えることなく南木の伝統行事として今日まで受け継がれています。



神社での舞もクライマックスをむかえ、稚児たちが一斉に躍りました。

役場本庁で開かれた初会合には、国交省遠賀川河川事務所や町職員も参加。



親 福智町川の夢プラン協議会設立
しみ感じる川づくりを目指して

親しみの持てる川づくりを目的とした「福智町川の夢プラン協議会」(大久保琢磨会長)が4月22日に設立しました。当初の会員はボランティアグループや教員など12人。国土交通省遠賀川河川事務所の事業に反映するための実行計画(夢プラン)を策定し、同事務所に提案します。今後、毎月第4火曜日に町内の川づくりについて協議される予定です。